

第5回埼玉サイコネフロロジー研究会

腎不全・血液透析は苦痛と生活の制約を伴う代表的な慢性疾患の1つです。これに関係して、透析の患者さんには、様々な心理的問題や精神症状、行動の問題などが起こります。本研究会では、このような透析患者の心理と行動について、日常臨床で経験している具体的な問題を取り上げ、主に事例検討と講演を行いたいと思います。守秘義務を持つ医療関係者で、この問題が重要だと考える方、関心のある方、日常臨床で困ることが多いと感じている方にぜひ参加していただきたいと思います。

日時：2010年2月18日（木） 18時30分～20時

場所：ラフレ埼玉

参加費：1000円

懇親会：研究会終了後

一般演題（座長 松村治：埼玉医科大学総合医療センター内科）

1. 腎代替療法選択における患者意思決定への看護者の関わり（永田裕香、長尾典子、松久保かおり、原田悦子、田邊厚子、小川智也、松田昭彦、松村治：埼玉医科大学総合医療センター人工腎臓部）
2. 患者の痛みを共通理解することで、スタッフのストレスを軽減する試み（桑折しのぶ：みさと健和クリニック）
3. せん妄と診断された症例から学んだこと：看護師の立場から（村上綾子：さくら記念病院）

講演（座長 大島譲二：くぼじまクリニック）

「Monster・ペイシャント」をどのように考えるか？ 精神科の見方と対応（堀川直史：埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック）

世話人

大島譲二（くぼじまクリニック）、小川智也（埼玉医大総合医療センター内科）、栗原怜（さいたま・つきの森クリニック）、斉藤卓（斉藤記念病院）、田邊明美（川越駅前クリニック）、堀川直史（埼玉医大総合医療センターメンタルクリニック）、松田昭彦（埼玉医大総合医療センター内科）、松村治（同）、村上綾子（さくら記念病院）、渡辺俊之（高崎健康福祉大）

共催：埼玉サイコネフロロジー研究会、大日本住友製薬（株）